



原尻の滝 (豊後大野市緒方町)

2021年 第1回定例県議会

**新型コロナ対策に万全の体制で
頻発・激甚化する災害に県土強靱化
あらゆる分野で先端技術の活用を推進**



二月二十五日に開会した二〇二一年第一回定例県議会は、三月二十六日に上程議案に対する採決が行われ、三十日間にわたる全会議日程を終えました。

今議会では、議員提案による「大分県手話言語条例」が全会一致で可決・成立しました。(条例の概要を裏面に掲載)

■ 厳しい歳入状況ながらも「積極予算」を編成

今回成立した新年度の一般会計予算は、「ポストコロナ」を見据えた八年連続で前年度を上回る積極予算となりました。

当初予算額が七千億円を越すのは平成十三年度以来のこと、コロナ対策の予算が相当額含まれていることが伺えます。

但し、新型コロナの影響で法人関係税を中心に県税

収入は大幅な減少が見込まれ、財源確保に苦労が見られます。新型コロナウイルスの終息が見通せないなか、県債増額や基金取崩しの状況から、財政健全性の維持に不安が残ります。

これまで医療機関への支援を通じ、医療提供体制の確保が進められてきました。今後、ワクチン接種が本格化していきます。

本県では、県内十九箇所全ての基本型接種施設において、デイブプリーザー(超低温冷凍庫)の配置が完了しています。

今後、ワクチン供給量の確保と安全かつ効率的な輸送を行うとともに、市町村や医師会等と連携するなか、円滑かつ迅速な接種体制の確保が求められます。

■ ワクチン接種体制の迅速確保に臨む

新年度予算と事業概要

<一般会計予算総額>

702,731百万円 (+47,868百万円 +7.3%)

* () は対前年度比増減

【事業別内訳】

- ポストコロナ社会創造枠 133事業 3,203百万円
- 感染拡大防止対策 17事業 19,447百万円
- 社会経済再活性化対策 45事業 5,142百万円
- 先端技術への挑戦 50事業 1,295百万円

【事業概要】*抜粋

I 健やかで心豊かに暮らせる安心の大分県

1. 子育て満足度日本一の実現

① SNS 子育て相談体制整備事業

子育て家庭が気軽に相談できる体制の充実を図るため、24時間365日で子育て相談を受付ける「いつでも子育てほっとライン」に SNS を活用した相談機能を追加する。

【13,582千円】

② 病児保育充実支援事業

安心して病気の子どもを預けられる環境を整えるため、病児保育を実施する市町村に対し運営費を助成するとともに、病児保育の広域化・ICT化に向けた取組を支援する。

【121,736千円】

2. 健康寿命日本一の実現

① 自立支援型サービス推進事業

高齢者が元気に生活し続けることができる地域づくりを推進するため、自立に向けて支援が必要な高齢者を短期集中予防サービスの積極的な利用につなげる仕組みを構築する。

【16,275千円】

3. 障がい者が安心して暮らせる社会づくりと障害者雇用率日本一の実現

① 障がい者就労環境づくり推進事業

障がい者雇用を促進するため、アドバイザーによる企業訪問、人材の掘り起こし、職場への定着支援等を行うほか、就労系事業所等から一般就労への移行を支援する。

【75,779千円】

② 発達障がい児地域支援体制整備事業

発達障がいの早期発見・早期支援につなげるため、保護者などの相談支援や支援先の受入調整等を行うコンシェルジュを県内各圏域に配置するとともに、相談・診療ができる小児科医などの養成に取り組む。

【39,186千円】

4. 強靱な県土づくりと危機管理体制の充実

① 地域防災力強化支援事業

地域防災力の向上を図るため、地域防災活動の要となる防災士のスキルアップを行うとともに、地域の防災士や福祉団体等(高齢者福祉施設)と連携した避難訓練等を実施する。

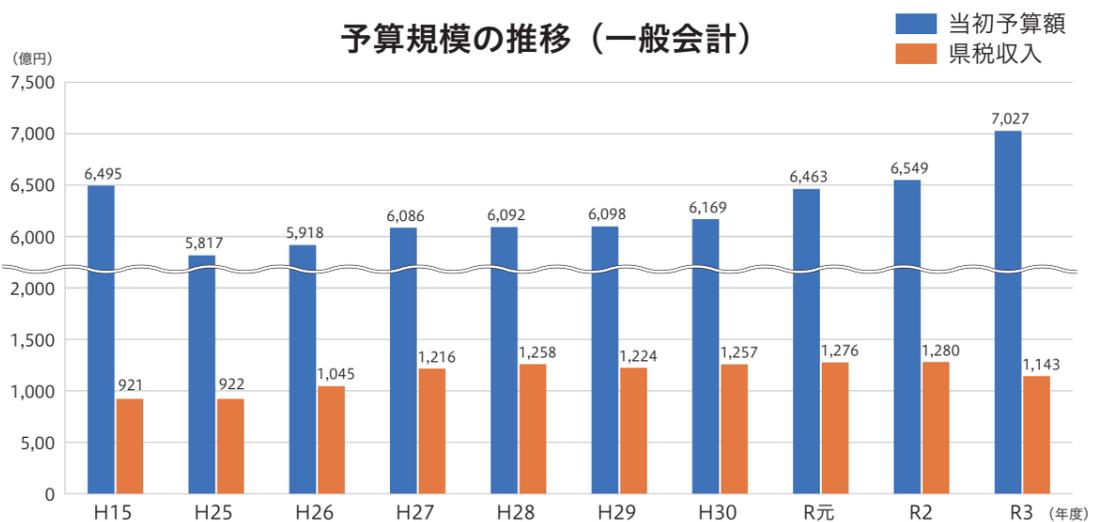
【33,678千円】

② 県土強靱化関連公共事業

災害からの復旧・復興や激甚化する自然災害に対応するため、河川の浸水対策やため池の防災対策等を行う。

【31,310,313千円】

予算規模の推移 (一般会計)



II いきいきと働き地域が輝く活力あふれる大分県

1. 挑戦と努力が報われる農林水産業の実現

① 水田畑化・園芸品目転換促進等関連事業
農業の構造改革をさらに加速するため、水田の畑地化による高収益な園芸品目への生産転換等を総合的に支援する。

【2,455,743千円】

2. 活力と変革を創出する産業の振興

① 先端技術への挑戦関連事業

地域課題を解決し、県内中小企業による新たな産業のフロンティアを切り開くため、AI・ロボット・ドローン等の先端技術に挑戦・活用する。

【1,294,879千円】

3. 地域が輝くツーリズムの推進と観光産業の振興

① 宿泊施設ワーケーション環境整備支援事業
ワーケーション促進のため、周辺の観光施設等と連携したプランを造成する県内宿泊事業者の通信環境整備等を支援する。

【30,367千円】

※裏面へ続く

手話が日本語とは異なる語彙や文法体系を有する言語であり、ろう者にとって思考、感情及びコミュニケーションの基盤であって、日常生活や成長していくために必要不可欠なものです。その理解は十分には広まっておりません。

こうしたなか、大分県聴覚障害者協会から手話言語条例の制定を求める請願が県議会へ提出され、昨年（令和2年）の第1回定例会において全会一致で採択されました。以降、県議会の政策検討協議会で条例案の作成を進め、今定例会にて条例案が上程され可決・成立しました。

■責務役割

○県の責務

- ・手話の普及等に関する総合的な施策を実施する。
- ・市町村その他の関係機関と連携を図るとともに、ろう者、手話通訳者等の協力を得るよう努める。

○県民の役割

- ・手話に対する理解を深めるよう努める。
- ・手話に関する知識及び技術に応じて手話の普及に努める。

○事業者の役割

- ・ろう者に対しサービスを提供するときは、又はろう者を雇用するときは、手話の使用に関し合理的な配慮を行うよう努める。

■県の施策等

- ・施策の制定及び実施
- ・手話を習得する機会の確保
- ・手話を学ぶ機会の確保
- ・手話を用いた情報発信等
- ・手話通訳者の派遣体制の整備等
- ・学校等における取組
- ・事業者への支援
- ・手話に関する調査研究
- ・手話の普及等に当たっての配慮
- ・財政上の措置



大分県聴覚障害者協会の皆様と条例制定を祝う

本条例の施行（令和3年3月12日）により、県民が手話に対する理解を深め、手話を必要とする人が手話を獲得または習得する機会を確保でき、手話による円滑な意思疎通のための環境整備が進むものと考えます。

条例制定までの道程は苦労もありましたが、障がいのある人となない人が相互に人格と個性を尊重し合い、歩み寄りながら共生する大分県の実現に寄与することを期待します。

Ⅲ 人を育み基盤を発展する大分県

1. 生涯にわたる力と意欲を高める「教育県大分」の創造

①未来へつなぐ学び推進事業

これからの時代を担う高校生に確かな学力の育成とグローバル教育及びSTEAM教育を推進するため、英語4技能育成システムを構築するとともに、先端技術を活用したEdTech教材（デジタル教科書、AIドリル）を導入する。
【120,050千円】

②次世代人材育成推進事業

先端科学技術分野で活躍できる人材を育成するため、高校生が宇宙への興味を持ち、挑戦意欲の醸成につながる講座（STEAM 課題研究講座）やシンポジウム等を実施する。
【32,938千円】

2. スポーツの振興

①国際車いすマラソン大会開催事業

障がい者スポーツへの注目の高まりを捉え、共生社会の実現に向けた機運の醸成を図るため、新しい生活様式（VRの活用など）に対応した第40回記念大会を開催する。
【73,760千円】

3. 「まち・ひと・しごと」を支える交通ネットワークの充実

①公共交通活性化促進事業

コロナ禍で利用者が減少している交通機関（バス、フェリー等）の利用者の早期回復を図るため、各交通事業者の特性を生かした商品造成等を行う。また、ユニバーサルデザインタクシーの導入支援を行うとともに、来県者の滞在時間の延長や満足度の向上を図る。
【189,166千円】



防災メモ

近年の気候変動の影響等により、日本のみならず世界各地でかつてないような規模での豪雨や台風による被害が発生しています。

昨年の「7月豪雨」では、熊本県では球磨川流域で、本県では筑後川水系の玖珠川や大分川水系の各流域において甚大な被害が生じました。

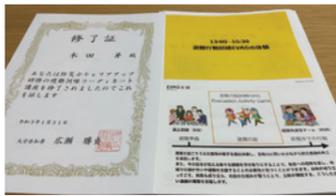
これらの災害は、河川整備等の土本的措置だけでは完全に防ぐことはできません。そこで、国・都道府県・市町村等の行政だけでなく、河川流域の企業や住民・利水者等の関係者全体が協働し、流域全体で行う持続可能な治水対策が「流域治水」です。

「流域治水」では、①氾濫をできるだけ防ぐ対策、②被害対象を減少させるための対策、③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策について、総合的かつ多層的に取り組むこととしています。

最近の動き

1月

- ＊「コロナ禍」により、例年行われる互礼会等の新年行事はほぼ全てが中止となりました
- ▷連合大分「2021春季生活闘争学習会」
- ▶防災士キャリアアップ 研修（県庁正庁ホール）
避難行動訓練「EVAG」と「マイタイムライン」の作成実習を体験。ステップアップの成果を、今後の防災・減災活動に活用。
- ▷内外情勢調査会「万物は渋滞する～シゴトの渋滞解消の法則」 講師：東京大学先端科学技術研究センター 教授 西成浩裕 氏
- ▷米軍基地の整理・縮小と日米地位協定の抜本的見直しを実現する日出生台集会（リモート開催）
- ▷大分フラワーフェスティバル冬（iichiko 総合文化センター）



2月

- ▷地方財政セミナー（ウェブセミナー）
- ▶大分市議会議員選挙 定数44に対し、現職43人と新人15人の計58人が立候補。結果は現職37人、新人7人が当選。新型コロナの影響もあってか、投票率は前回から2%減の46.18%と低迷。
- ▷大分政経懇話会 「米大統領選挙後の国際情勢と日本外交」 講師：慶應義塾大学法学部教授 細谷雄一 氏



- ▷2021年度大分県当初予算案発表
- ▷第33回県警ふれあいコンサート（iichikoグランシアタ）
- ▷連合大分2021年度当初予算編成に関わる政策・制度要請実現に向けた取組
- ▷無所属議員の会（FILAs）勉強会・WEB セミナー「波を描く新型コロナウイルスへの自治体からの対応」 講師：東京大学先端科学技術研究センター 名誉教授 児玉龍彦 氏
- ▷第14回県議会政策勉強会「昨今の県観光について」 講師：（公社）ツーリズムおおいた 会長 幸重鋼二 氏
- ▷新型コロナウイルス感染症に関する説明会
- ▷第1回定例県議会開会

3月

- ▷商工観光労働企業委員会「アフターコロナをみすえた大分県観光の再生に向けて」参考人：大分経済同友会 クリエイティブ大分委員会 「CREATIVE PLATFORM OITAに関する報告」 参考人：NPO法人 BEPPU PROJECT 代表理事 山出淳也 氏
- ▷大友氏顕彰フォーラム in 佐伯（佐伯市）
- ▶県議会手話講座 大分県手話言語条例の制定を受け、手話講座を議員全体で受講し、挨拶や自己紹介等を習得。手話への理解と普及促進につなげていきたい。
- ▷第1回定例県議会閉会
- ▷おおいた蔵人 FAN と新酒まつり2021（お部屋ラボ 祝祭の広場）



公式LINEはコチラ
木田昇の議会・政務活動を随時更新中。

ご意見・ご要望なども、お気軽にご連絡ください！
*QRコードからお友達登録をよろしくお願いします。

県民クラブHPはコチラ
http://www.oct-net.ne.jp/kenmin-club/

竹の子記

県内で「新型コロナウイルス」の初の感染者が判明したのは、昨年の三月三日。この一年間の県内感染者数は約千三百人、死亡者は二十人を超えました。▼「コロナ禍」の終息の決め手と言われるワクチン接種が県内でもスタートしました。まず、先行接種として県内の医療従事者約一千人、次に優先接種第一グループの医療従事者五・一万人、続いて優先接種第二グループの高齢者（令和三年度中に六十五歳以上となるもの）四十・三万人が対象となります。▼そこで問題なのが、ワクチンの供給量。国が購入したワクチンを地方へ配分しますが、その総量が多量にも関わらず、県民全体に行きわたるのには年を越すかもしれません。▼ワクチン接種が「長いトンネル」の出口がやっと見えたかと思いきや、この有様です。問題は、ワクチンを生産する国や、ワクチンを生産する国から購入せざるを得ない我が国の危機管理体制にあり、ワクチンが不足する恐れがあります。▼いずれ国産ワクチンが開発されるとは思いますが、国の対応が遅すぎます。医療関係では、ワクチン開発は副反応の訴訟リスク等から敬遠されがちとの話も聞かれます。それなら、国民の生命を守る責任のある国がそこをカバーして開発を急ぐべきだと考えます。